

激しく腰を使い、大きく張りだしたカリで鈴音の膺壁を抉りまわす。

「は、はひっ、りゅ、竜一さま、竜一さまです、うっ、ああんっ」

鈴音が童顔を歪めて喘げば、今度は彩音が彼女の手を握りしめる。

「り、鈴音ちゃんっ」

犯されて泣き喘ぐ妹が可愛くて、可哀相で、どう声をかけていいのかわからない。

「あんっ、お、お姉ちゃん、鈴音……も、もう……」

涙を流す妹がなにを言いたいのかは、同じ女として彩音にもすぐわかった。

「いいのよ、鈴音ちゃん。イカせてもらいなさい……心配しなくても大丈夫よ。お姉ちゃんは、鈴音ちゃんのこと嫌いになつたりしないわ……ずっと大好きよ」

涙がこぼれた。妹のようになりたい。鈴音ちゃんのように、自分の欲望に素直になりたいと心から願う。

小さな手をぎゅっと握りしめてあげると、鈴音は愛らしい顔をクシャと歪めて小柄な身体をビクビクツツと痙攣けいれんさせた。

「あうんっ、だめえっ、お姉ちゃんっ、あんっ、ああんっ、イツちゃうううッ」

鈴音はお姉ちゃんに手を握られたまま絶頂に達すると、そのまま金網にもたれかかるようにして崩れ落ちた。

可愛い妹の絶頂を目の当たりにした彩音は、身体の芯が熱く疼くのを感じ、たまらずボンテージパンティのヒップを誘うようにくねらせる。

「彩音先輩もイキたいんですか？」

まだ射精していない竜一が背後から、抑揚のない声を浴びせてくる。

「あ……はああ……わ、わたし……」

「どうなんです？ イカせてもらいたいんなら、ちゃんとお願いしてください」

「入れて……ください」

ためらいなく自然と唇が動いた。

「入れてください……お願いします……竜一さま」

後輩をさまづけで呼ぶことに、まったく抵抗を感じない。きつと妹が言わせてくれたのだろう。すぐに竜一がヒップをわしづかんで、お尻の穴に押し入ってくる。

「ひっ……かはっ……んはあっ」

痛かったのは最初だけで、すぐに快感がふくれあがる。剛直を挿入されるときに強烈な圧迫感と、引きだされるときに排泄にも似た危険な感覚がたまらない。

「はっ……あはっ……ああっ」

数回出し入れされると、あっという間に限界が迫ってくる。

(り、鈴音ちゃん……お姉ちゃんも……もう……)

鈴音は絶頂の余韻に浸っているのか、うずくまったままの姿勢で艶っぽい吐息をついている。

「ククッ、最高だよ。やっぱ先輩みたいに美人だと、こっちの穴も最高なんですわね」
美姉妹を連続で犯す愉悦に、竜一はこれまでにない興奮を覚えながらドストスと腰を叩きつけていく。

「はんっ……あはあんっ……ああっ、鈴音ちゃんっ」

妹のイクときの顔を思い浮かべると、どす黒い快樂の大波が押し寄せて、頭のなか
が真っ白になっていく。

(ああ、鈴音ちゃん。好きよ……好き)

心のなかで愛しい妹に語りかけると、快感がより鮮烈なものとなった。巨大な肉亀
に直腸壁を擦られるたびに、しとどに濡れそぼった秘裂から蜜液が溢れて、雪白の内
腿を濡らしていく。

「あっ、あっ、か、感じるっ……ああっ、お尻で感じちゃうっ」

たまらず彩音が睨り泣きをもらせば、竜一は鼻息を荒げながらかさにかかって先輩
のアナルを抉っていく。

「ほらほらっ、もっと感じていいんですよ。妹の見てる前でイカせてあげますよ」

「いやんっ、鈴音ちゃん……み、見てる、見てるのね」

コンクリートの上に力なく横たわっている鈴音が、トロロンと潤んだ瞳で見あげている。彩音もねっとりした視線をかえしながら、抜群のプロポーションをブルルツと痺けいさせた。すべてを理解してくれている妹のやさしく甘い視線を浴びて、彩音の性感はついに限界を迎えようとしていた。

「ああんっ、竜一さま……彩音、お、お尻……もう、い、イキそうです」

泣きながら振りかえり、快楽を与えてくれるご主人様をおおぎ見る。

「これから毎日イカせてあげますよ。くうっ」

アナルの強烈な締めつけに、さすがの竜一も苦しそうにうめきながら、とどめの杭打ちに入った。

「ああっ、すごいっ……も、もうっ」

「くっ、絡みついてくるっ、俺も出そうだった」

「あうっ、イク、イツちゃう、あっ、あっ……イックうううッツ！」

竜一のザーメンを直腸に浴びせかけられ、涎れを垂らしながら肛虐のオルガスムスを昇りつめていく。アナルのじくじくした疼痛が、後輩に排泄器官を犯されたことを

自覚させ、アクメをより深いものへと飛躍させる。

「あつう……死んじゃう」

貪欲なアナルはザーメンを一滴残らず吸い取ろうとするかのように、いつまでも収縮を繰り返す。

そのとき、眼下のテニスコートから見あげていた昔の恋人と目が合った。しかし、すぐにお互い何事もなかったかのように、視線をそらすのだった。



イクウ……ッ

はッ

イ……イツ

はあッ

はッ

はッ

はッ



はあッ

はあッ

はあッ

おろろ

はッ

ぺた



はあッ

はあッ

はッ



はあッ

はあッ

はあッ

綺麗ですよ
お一人とも…

さあ 次は何を
しましょうか…

はあッ

はあッ

はあッ

はあッ

